



鳥取県立船上山少年自然の家 主催事業

令和2年度 年長園児対象企画
「船上山スクール体験入学」実施報告書



I 事業の概要

1 期日:令和3年2月28日(日)

2 日程

9:30	おはよう(うけつけ)
10:00	あさのかい(であいのつどい)
10:10	1じかんめ「こくご・さんすう」 ☆ことばの ゲーム・すうじの ゲーム☆
10:50	2じかんめ「せいかつ」 ☆にじの はしをつくろう!☆
11:30	3じかんめ「たいいく」 ☆おやこで からだを うごかそう☆
12:00	きゅうしょく(おひるごはん)
13:00	4じかんめ「ずこう」 ☆さかなつりを しよう!☆
13:45	5じかんめ「がっかつ」 ☆かんそうを かこう☆
14:00	かえりのかい(わかれのつどい)
14:30	さようなら(かいさん)

3 趣旨

・小学校の学習体験を通して、4月からの小学校生活への期待と意欲を高める。

4 対象:年長園児とその保護者12組(24名程度)

5 応募者数:10家族21名(当日参加者数:10家族20名)

6 学生ボランティア:感染症対策のため、募集なし

7 参加費:1人800円(食費、活動費等、保険料)

II 実施状況

<2月28日(日) 天候 晴れ>

あさのかい(出会いのつどい)では、やや緊張感のある雰囲気の中、保護者の方に見守られながら、元気にあいさつをしたり、背筋を伸ばして座ったりする子どもたちの姿が見られた。

1時間目は「こくご・さんすう」の学習を行った。国語では、ひらがなカードを並び替えて動物の名前を見つけるゲームを行った。初めは緊張していた子どもたちだが、徐々に学習環境の雰囲気に慣れ、手を挙げて発表する姿も見られた。カードは、組み合わせ次第でいろいろな動物の名前ができるが、うまく並べ替えることで12種類の動物の名前を見つけることができるようになっており、子ど



もたちの発表ですべての動物の名前を見つけることができた。算数では、サイコロを2つ振ってその出た目の合計数だけカプラを繋げて並べ、長く伸ばしていくというゲームを行った。並べ終えた後は、出た目の数だけ片付けていくことで、簡単な足し算の練習を2度行える活動である。子どもたちは楽しみながらゲーム感覚で学習することができた。



2時間目は「せいかつ」の学習を行った。花などの自然物から、水に色を染み出させる活動からヒントを得て、水性ペンとティッシュを用いた色水作りの活動を行った。親子で5種類の色水を作った後、それをペットボトルに入れて混ぜることで、色の変化を楽しんだ。その後、全家族のペットボトルをアーチ状に並べ、虹の橋を前にして班ごとに写真撮影を行った。色の変化に驚く子どもたちの表情が印象的だった。



3時間目は「たいいく」の学習を行った。準備運動後、親子で指に小枝をはさんでコーンをまわる「小枝運びリレー」や、子どもたちが障害物を乗り越えた後、保護者におんぶしてもらってゴールへ戻る「親子で協力!障害物リレー」を行った。体育館はやや寒かったが、親子でしっかり運動した後は心も体も温まったようだった。



きゅうしょく(昼食)では、従来のように参加者が配膳するいわゆる給食方式ではなく、あらかじめバットに用意された食事をテーブルに運んで食べていただいた。運動の後に食べる食事は格別であり、笑顔があふれていた。



4時間目は「ずこう」の学習を行った。新聞紙と紐で作った釣り竿と、画用紙に自分で書いた魚を使った魚釣りゲームである。紐の先につけた磁石で、魚の口につけたクリップをねらい、見事くっつけば釣り上げられる。子どもたちは、自分で作った竿で自分の作った魚を釣り上げることができ、満足そうだった。最後に船上山のヌシとして「レインボーくじらさん」を登場させ、みんなで力を合わせて釣り上げる活動を行った。友だちと協力して行うことができる限られた活動であり、釣り上げに成功した時の子どもたちの顔は喜びに満ちていた。



5時間目の「がっかつ」では、一日を振り返り、感想を記入した。子どもたちは文字を書くことにまだ慣れていないが、思いを丁寧に言葉にしようとする姿が見られ、感想からは楽しかった思い出が十分に伝わってきた。



かえりのかい(別れのつどい)では、多くの園児が友だちの前で感想を発表した。初めて出会う仲間や大人も多くいる中で、自分の気持ちが言えることは素晴らしいことだと感じた。

Ⅲ 総括

Ⅰ 参加者の感想(抜粋)

- ・にじのはしをつくるのがたのしかった。またきたいです。
- ・いろみずあそびがたのしかったです。さかなをつるのがたのしかったです。
- ・おさかなつりがたのしかったです。みんなのまへではなすのがちょっとはずかしかったです。でもがんばりました。
- ・たのしかったし、おともだちができました。ともだちとなかよくできました。

2 成果

- ・琴浦町から児童用の机や椅子を借りて会場設営をしたり、指導員を先生として位置付けて学校らしさを演出したりすることで、学校の学習体験活動としての質を向上させることができた。
- ・各活動や食事配布など、様々な場面でコロナ対策を行い、安全に活動を行うことができた。
- ・2年間の実施を通して、この主催事業を2年目指導員のまとめの1つとして位置付ける形を構築することができた。

3 課題

- ・事前に各子ども園に確実にチラシが届くよう、広報を年間計画に位置付け、職員で共通理解しておく必要がある。
- ・チャイムや食事中のBGMなど、学校らしい雰囲気や穏やかで楽しい空気を作るための工夫をする余地があった。